

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2010年 5月 6日

所属：教育文化学部国際言語文化課程国際コミュニケーション選修 4年

氏名：伊東 恵理

派遣先大学名（国）グリフィス大学（オーストラリア、クィーンズランド州）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：10ヶ月

渡航年月日：2009年2月20日

帰国年月日：2009年12月4日

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

私は Academic English で英語でのエッセイの書き方やリサーチの仕方を、Professional English でビジネスでの適切な英語表現などを学びました。また、Family, Gender and Sexuality in Asian Society では、アジア諸国における家族の役割や形態の変遷、また女性の役割について学びました。そして、Communicating Across Cultures in Asia and Australia ではアジアとオーストラリアのコミュニケーション方法の違いなどを学びました。どの授業も講義とチュートリアルという少人数でディスカッションをするもので構成されています。講義への出欠は取られませんが、チュートリアルでは出欠から発言回数などもチェックされており、積極的な参加が評価されていきます。

このことから、物事に対して自分の考えを持ち発言することができるようになりました。また、課題も多く、読む文献の量が膨大であったため、計画的に進めていくことが非常に大切でした。計画的に進めたつもりでも、授業の前日は夜遅くまで文献を読んでいたし、課題提出前は徹夜することもしばしばでした。

現段階では卒論のテーマは未定ですが、この留学で英語で論文を書くことや英語の論文を読むことに対して抵抗がなくなったので、質の高い卒論を仕上げたいと思っています。

○生活面について

大学はブリスベンのシティーからバスで30分ほどに位置し、キャンパスは小さな山の上にあります。私はキャンパス内にある寮に住んでいました。私の寮は4人用自炊タイプで、フラットメイトは男女混合で国籍は様々でした。一年間で一緒に住んだのは、オーストラリア人、カナダ人、アメリカ人、韓国人、マレーシア人でした。今まで一人

暮らしをしていたので、誰かと一緒に住むことへ初めは不安もありました。しかし、過ごす時間が一番長いので、打ち解けるまでにはそれほど時間はかかりませんでした。一緒に買い物に行ったり、旅行したり、相談しあったりと何でも話せる存在です。そんなフラットメイトとは帰国後も連絡を取っています。

また、食事については、オーストラリアは様々な文化を持つ人々で構成されているので、世界中の国の料理を食べることができます。長期留学を乗り切るために私が一番大切だと思うことは、食べられたものを食べることだと思います。ですので、私は外食以外では、日本にいるときに食べていたものと同じものを自炊していました。アジア系スーパーもあるので、日本特有の調味料や食材も手に入ります。友人に手料理を振舞ったこともあります。

そして、友人作りについてですが、寮に住む学生を対象にしたイベントがたくさんあるので、友人を作る機会が豊富です。飲み会やバーベキューなどが頻繁に催されています。また、授業ではグループワークやディスカッションも多いので、共通の興味からも輪が広がっていきます。私は小学生のころからバスケットボールをしているので、留学先でもサークルに参加したくさん友人を作ることができました。グリフィス大学は留学生のサポートがしっかりしているので、安心して生活することができます。

○その他留学全般にわたる感想

私は私費での語学留学と交換留学合わせて2年間オーストラリアに留学していました。帰国し就職活動を終えた今感じることは、この2年間で自分が大きく成長したことです。

留学というのは、知らない土地で人間関係を築き、全て自分で考えて行動を起こしていくことが求められます。また、様々なプレッシャーやストレスとも戦うことにもなります。その分、自分と向き合う時間も多くなります。日本にいたときには気づかなかった自分の強さや弱さに驚くこともしばしばでした。私がホームシックになったのは最初の3日程度でしたが、私の周りにはホームシックで体を壊し、帰国した子もいました。自分の常識や当たり前だと思えることが異文化では通用しないことを受け入れていく柔軟さや、そういった環境への早めの適応が必要です。留学で経験したことの中にはもちろん辛かったこともたくさんありましたが、留学でできた友人や辛いことも乗り越えたことに対して自分に自信ができました。また、様々な価値観や考え方が存在することを知り、「人」に対して寛容になりました。この充実し、実りの多い留学をさせてくれた秋田大学に感謝いたします。

